

【学力向上フロンティアスクール中間報告書】

都道府県名	山形県
-------	-----

学校の概要

学校名	東根市立東根中部小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	4	3	3	3	3	24	32
児童数	116	104	118	95	93	93	5	612	

研究の概要

1、研究主題

学ぶ意欲を向上させる授業を目指して
～学力向上フロンティアの3観点を生かして～

2、研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

全学年で実施

基礎基本の重視を考えたときに、まずは読み・書き・計算の力の育成という面から、基礎教科である国語科と算数科を窓口にして研究していくことが必要ではないかという考え方のもとに研究をスタートさせた。

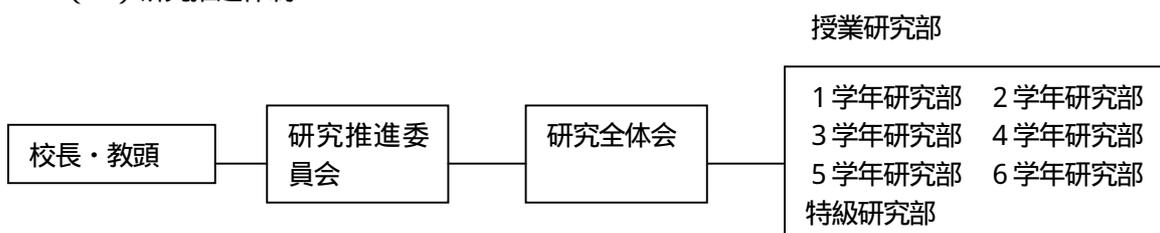
また、昨年度まで「総合的な学習の時間」を研究してきた、我々が改めて再認識させられたのが、各教科の学習内容の確実な定着が総合的な学習の時間の充実に不可欠であるという点であった。そこで、教科での学びを充実させるために日々の教科における授業改善に取り組むことが急務であることを再認識した。まずは、系統性を重視する教科である国語科と算数科を窓口にしようと考えた。

(2) 年次ごとの計画

平成 15 年 度	<p>テーマ</p> <p>「読み・書き・計算」の基礎学力の定着 学ぶ楽しさを実感し、力のつく授業の創造</p> <p>研究の見通し(仮説)</p> <p>本校が子どもたちに「付けたい力」は「学ぶ意欲」である。「学ぶ意欲」は、子どもが学習に取り組む前提となる学力であり、この「学ぶ意欲」に支えられた学習によって、他の「思考力」「表現力」「知識・技能」などの学力が形成されると考える。本校では、上記の二つのことに取り組むことで形成できるのではないかと考え、実践を図る。</p> <p>研究の方法・内容</p> <p>(1) 一人一人の教師の指導力を高めるための授業研修の計画的実施</p> <p>個人テーマ(自分の学級での課題は何か。その課題解決のためにどんな手だてを講じていく必要があるか。どんな力をつけたいか。など)を設けて、そのテーマのもと、個々人が授業改善を通じて指導力を高めていく。</p> <p>「確かな学びとは」「確かな学力とは」「一人一人の個に応じるとは」などの学力向上の基盤となる考え方について、一人ひとりが授業作りを通して、自己の思い</p>
--------------------	--

	<p>を見つめていく。 研究の基盤を教科部会におくのではなく、学年部会を充実させ、授業の基本構想や評価などについて学年の先生方で十分な研修を積む。各個人は国語か算数のどちらかを中心に研究していくが、同じ学年の中で互いに授業を開き、授業改善という共通の目標を持って学力の向上を目指す。 子供の学びに視点をあてた事後研の改善</p> <p>(2) 個に応じた指導を充実させるための、教科担任制によるTT指導 4, 5, 6年生の算数・理科 ・サブティーチャーの役割の充実(評価・学習の見取りと個別指導の充実) 授業及び補足的な学習や発展的な学習など個に応じた指導のための教材の開発 少人数指導者配当クラスの授業像の確立</p> <p>(3) 確かな学力の土台となる基礎的学力定着のためのぐんぐんタイムの設定 国語の読み・書き, 算数の計算等のドリル学習のための時間の設定 ・(2年~6年) 毎週火・水・木曜日の13時45分~14時までの15分間 担任外職員の参加によるTT体制によるきめ細かな指導(3年~6年) ・算数ぐんぐんタイムと国語ぐんぐんタイムを一週間毎に実施。中学年と高学年が同じぐんぐんタイムにならないように設定し, 算数ぐんぐんタイムには, 担任外教員が入りTT指導を実施。</p> <p>(4) 学び合いを支える学級づくり 一人一人が認められる, その学級にいて楽しいと思える学級づくり</p>
平成16年度	<p>テーマ 学ぶ意欲を高め, 学ぶ楽しさを実感し, 力のつく授業の創造。 学ぶ意欲が高まった子どもたちの具体的な姿を見取る手立てを探る。</p> <p>研究の見通し 仮説は平成15年度を概ね踏襲するが, 一年次に明らかにならなかった点, 学ぶ意欲の具体的な捉え, 実践しての課題を通じて, その解決のための手立て・切り口をキーワードを設定して, 具体的に検証していく。特に「意欲」と「学力」の相関性を明らかにしていく。</p> <p>研究の内容・方法 (1) 一人ひとりの教師の指導力を高めるための授業研究の計画的実施。 今年度は, 国語と算数の教科部会を興し, 教科の系統性や本質に深く迫る研究につながるように組織を改編する。 (2) 個に応じた指導を充実させるための, 教科担任制によるTT指導 (3) 確かな学力の土台となる基礎的学力定着のためのぐんぐんタイムの設定。 (4) 学び合いを支える学級づくり</p>

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1, 研究成果

各自が子どもたちの実態を多方面から探り、それをもとに子どもたちに「付けたい力」、自分の「目指す授業像」を明確にして授業改善にあたらうとする意識が喚起された。アクションリサーチの考え方を生かして、評価を十分反映させて、次の見通しをもって授業作りに励む姿が見られた。

評価規準による早期評価の工夫により、子ども一人ひとりの「今」を把握して、十分な支援を通じて引き上げることができる場面が増えた。

各教科の学習を進めるための道具となる基礎学力の徹底を図るために、帯学習を工夫した。結果、子どもの意識の中にしっかり帯学習（ぐんぐんタイム）が根ざし、伸びを子ども自身が実感することができた。

「授業を開く」という教員の研究集団としての意識も高揚しつつある。

2, 今後の課題

今年度は研究主体を、各学年部会中心に研究を進めてきたが、その長所は十分あったものの、教科の系統性の面などで研究の深まりが今一步見られなかった。そこで、来年度は、国語と算数の教科部会を立ち上げ、学年部会とともに研究の主体として進めていく方向で考えている。そこでは、学年部会と教科部会の効果的な連携の仕方を探っていく必要がある。

研究成果や課題を全体のものにしていくことが十分できなかった。個人・学年に研究が留まり、そこからの広がりや発展がみられず、収束してしまった。

研究の大枠・研究を進めていく上で共通理解を図るべき点が十分全員のものにならず、手探りで研究が進んでしまった。学ぶ意欲とは・学力とは・などの研究の基盤となる理論について深く捉え、それを全体のものにしていく。また三観点についても、それぞれの理論や具体的な事例などを先進校の実践から学んでいく。

研究推進委員会の役割や働きが明確でなかった。理論面でのリード、実践の価値付けを十分していく。また組織についてももう一度再編する必要がある。

学力等把握のための学校としての取り組み

年度始めと3学期に、同様の国語・算数に対する意識アンケートと生活アンケートを実施し、その変容について数値的な部分や子供の声から探る。また、担任が自分の付けたい力について、目指す授業像についてという面から授業の分析を通じてその成果と課題を明確にする。

3学期に到達度テストを実施し、落ちている点や十分理解が得られた点を把握し、学年末の指導に生かす。

年度始めに学力テストを実施し、昨年度の数値と比較してその伸びや落ちている点を把握する。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

平成15年10月24日 授業研究会（自主公開）の開催 東根市内小中学校対象
平成16年10月22日 授業研究協議会開催予定 村山教育事務所管内小中学校対象
研究概要・研究成果普及のためのHP作成・パンフレット作成予定。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	1 5年度からの新規校	1 4年度からの継続校		
【学校規模】	6学級以下	7 ~ 1 2学級		
	1 3 ~ 1 8学級	1 9 ~ 2 4学級		
	2 5学級以上			
【指導体制】	少人数指導	T . Tによる指導		
	一部教科担任制	その他		
【研究教科】	国語	社会	算数	理科
	生活	音楽	図画工作	家庭
	体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	